

UNIT FOR GOOD

よいことのために手を取り合おう

2025～26 年度年度

国際ローター会長 Francesco Arezzo

Rotary
東京麹町



東京麹町ロータリークラブ

本日の例会プログラム

第 13 回例会 2025.11.17(#2463)

舞の間

例会ホスト・紹介係 吉沢会員

受付係 保科会員 濱田会員

司会者 乳井会員 ソングリーダー 杉山会員

卓話 「税についてのこぼれ話

～税務行政の現状等～」

麹町税務署長 馬場 光徳氏

紹介者 地引会員

前回の報告

第 12 回例会 2025.11.10(#2462)

舞の間

例会ホスト・紹介係 園田会員

受付係 保科会員 末竹会員

司会者 山田会員 ソングリーダー 青山会員

卓話 「会員を知ろう」

秋山宗和会員・地引恒夫会員

時園茂樹会員

今期のモットー: 「より高みを目指して」

会長報告

- 1) 10月27日のガバナー 公式訪問では御協力ありがとうございました。
- 2) 今期の地区大会の御案内の為、東京紀尾井町RCの次年度会長の原田尚彦様、次年度幹事斎藤学様がお越しです。
- 3) 秋山会員は今期で入会30年となります。クラブより功労賞を差し上げたいと存じます。
- 4) 本日は会員を知ろうのシリーズで、秋山会員、地引会員、時園会員からお話を頂きます。

幹事報告

- 1) 例会終了後に定例会理事会がございます。該当の方はお残りください。
- 2) 1月28日に開催される、千代田6クラブ合同例会の出欠をお申し出下さい。登録料は例会費で充当します。
- 3) 2月26日(木)に開催される地区大会は東京紀尾井町RCがホストクラブです。皆様のご登録をおねがい致します。
- 4) 2月10日に開催するポリオ根絶チャリティー公演『ライオン・キング』のチケットの購入枚数について、以前にうかがった枚数で変更がおありの方はお申し出下さい。(1枚 13,000円)

例会記録

会員総数 60名 出席会員数 26名
ゲスト 2名 ビジター 0名
その他 1名 海外ビジター 0名
事務局 3名

ニコニコボックス

原田尚彦様(東京紀尾井町 RC)

齊藤 学様(")

本日は地区大会のご案内に参りました。
宜しく願い致します。

若林会員: 先週末お隣の横浜川崎地区大会
で RI 会長代理として参加、ありがとうございました。

末竹会員: 琵琶湖疎水船に乗船、その後
TOTO JAPAN CLASSIC を観戦し 畑岡・山
下を追って回りました。

植芝充央会員: 父の叙勲祝賀会にお越しい
だいた皆様に感謝申し上げます。

住吉会員: 16年ぶりのエッセイ書籍「50歳の
棚卸し」を講談社から出版することができま
した! お陰様で今月3刷重版が決定。

秋山先生のこともしきました。

結婚記念日: 青山会員、須藤会員

パートナー誕生日: 浅野会員

次回予告

第14回例会 2025. 12. 1(#2464)

会場: 舞の間

例会ホスト・紹介係 吉田会員

受付係 齊藤会員 莊村会員

司会者 保科会員

ソングリーダー 崎山会員

卓話「認知症について」

東京医大名誉教授

桜井 博文先生

紹介者 細谷会員

1月28日(水)12:30～
千代田6クラブ合同例会
@帝国ホテル

2月26日(木) 13:00～
第2580地区大会
@H・ニューオータニ

例会終了後 クラブ年次総会

(会員の方はお残り下さい)

私の故郷～福建省について

米山奨学生 陳 好さん(10/6 卓話)

福建省の略称は「閩(みん)」といいます。

中国には 34 の省や直轄市がありますが、それぞれに略称があり、福建省の略称は閩です、福建省の人々は「閩人」とも呼ばれます。

福建省は緑が多く、ほとんどが山です。実に**土地の 90%を山地と丘陵が占めるため、「東南の山国」と**呼ばれます。人々が住む主要都市も沿海部に集中しています。

中国では昔から「八山一水一分田」という言葉で福建を表してきました。つまり「八割が山、一割が水、一割が耕地」という意味です。農地が極めて少ないことがわかります。そのため、福建は「兵家必争の地(軍事的に争奪される土地)」ではなく、むしろ「兵家があまり争わない土地」とされてきました。なぜかというと、中原(内陸部)から福建に入るのは山脈が壁のように立ちはだかり、とても難しかったからです。その分、福建は戦乱の影響が比較的少なく、独自の文化を育んできました。

福建で一番大きな川は「閩江(みんこう)」といい、福建の人々の暮らしを支えてきた母なる川です。閩江は省都・福州に流れ込むため、福州は福建省の政治的中心となりました。福建省の川は航行に適していません。そして福建は山と川に分割され、地域ごとに隔てられています。そのため、少し離れるだけで方言がまったく違います。

例えば、閩東語と閩南語は、まるで別の国の言語のように違います。福建は「方言博物館」とも呼ばれるほど、言語の多様性が特徴です。

このような地理的条件にある福建省は、農業に適した土地が少なかったため、昔の中国では「恵まれて

いない地域」と見られてきました。なので人々は自然と海に活路を求めるようになり、福建は早くから海上貿易が盛んな地域となりました。

ところが、明・清の時代には何度も「海禁政策」が実施され、福建の人々は大きな打撃を受けます。福建では「海に出られなければ生きられない」と言われるほど、生活が海に依存していたためです。海禁によって正規の貿易が制限されると、多くの福建人は商人であると同時に、時には海賊ともなりました。実際、明代の「倭寇(わこう)乱」が最も激しかった時期は、海禁政策が最も厳しかった時期と重なっており、倭寇の中には福建出身の商人も少なくなかったのです。一方で、明代後期に一時的に海禁政策が緩められると、倭寇の活動も次第に収まりました。

近現代に入ると、福建省は台湾との関係から、さらに厳しい状況に置かれることになりました。まず、台湾が日本に占領されていた時期、福建の人々にとっても台湾へ渡って商売をすることが難しくなりました。さらに中華民国の時代には、アメリカが福建に軍事基地を建設しようとしたことが、日本側が強く反対し、最終的に日本と北洋政府との間で次のような合意が結ばれました。——「福建沿岸に軍事施設を建設することは一切認めない。また外国資本による建設の意図も持たない。」このように、福建は国防の最前線としての位置づけが一層強められました。

その結果、福建省のインフラ整備は後回しにされてしまいました。「どうせ戦争が起こるかもしれない場所だから、発展させなくてもいい」という発想が背景にあったのです。

もし中国政府が福建で軍事整備を進めれば、アメリカが介入する可能性もある——そうした複雑な国際政治の板挟みにもありました。

要するに、今の福建省といえば、中国の中でも経済が発展していて、商売が盛んな地域として知られていますが、実は長いあいだ厳しい条件の中で生きてきた歴史があります。

福建省にはこういう言葉があります【三分天注定，七分靠打拼，爱拼才会赢】つまり「三分は天に定められ、七分は努力次第。努力してこそ勝利をつかむことができる。」

政策に恵まれなくても大丈夫。福建の人たちは神様——媽祖にお願いして、なんとかやり抜きます。

「媽祖さま、明日から海外に行くことにしました。どうかお守りください！」

もし聖杯占いで「合意」のサインが出れば、ビザなんて必要なし！

「よし、行くぞ！」という勢いで海を渡ったのです。

このように、勇敢な福建人は自分の力で生き抜いてきました。そのためには、家族が一つにまとまるのがとても大事でした。

福建の宗族は男系を中心にまとまり、互いに助け合う仕組みを作ってきました。

そして人々が海外へ商売に出るときには、「会館(かいかん)」を建てました。

会館は、同郷人が集まって情報を交換したり、互いに助け合ったりする場所です。

宿泊の場になったり、神様を祀る信仰の拠点になったりもしました。

福建には大小さまざまな祠堂があります。祠堂は「祖先祭祀」の場でありながら、多くの場合「神祇信仰の廟」とも兼ねています。

このように立派で大規模なものもあれば、村の中にある小さな祠堂もあります。

祠堂の両側には小さな門があり、そこには「入孝」「出悌」と書かれています。

その意味は、「家にいるときは親に孝行し、外に出たら人に友好的に接する」ということです。

福建の伝統的な建築は「厝(ツォ)」と呼ばれ、一般

的に赤レンガで造られています。

福建人には「大金を稼いで、大きな家を建てる(賺大钱, 起大厝)」という言い回しがあります。これは、成功して財を成したら故郷に戻り、立派な家を建てるという価値観を表しています。

ですから、福建の田舎に行くと、あちこちに背の高い別荘のような家が建っているのを目にします。

大きければ大きいほど立派とされ、一族みんなで大きな家に住むのです。

もしお金を稼いで大きな家を建てたら、さらに村のみんなを招いて閩劇を見せるのが習わしでした。「閩劇(みんげき)」は福建の独自の劇であり、福州方言で歌う伝統劇です。芝居は祠堂の前で演じられ、もし有名な劇団を招けば、他の村の人たちも聞きつけてわざわざ見に来るほどでした。2000 年ごろまではこのような芝居が盛んに行われていましたが、今では福建から海外に出稼ぎに行く人が減り、劇団を招くことも少なくなっています。

福建には有名有姓の神祇、つまり実在の人物から神格化された神様が多く、これまでに 1000 柱以上が確認されています。

代表的な例として、海の女神「媽祖(本名:林默)」、医神とされる「保生大帝(本名:吳本)」、そして女性や子どもを守る神「臨水夫人(本名:陳靖姑)」が挙げられます。

信仰の場も非常に多く、2022 年の調査では、10 平方メートル以上の施設が 33,423 座あると報告されています。その中でも特に有名なのが媽祖廟で、福建全体で 1500 カ所以上にのぼります。

媽祖信仰は福建を越えて、台湾や東南アジア、さらに世界中の華僑社会に広がっています。

コロナの時期、福建の「遊神(ゆうしん)」の行事が TikTok で流行しました。

これは、神様の像が街の中を歩く伝統行事です。

近年では、その神様の装飾や模様が若者の好みに合わせて工夫されており、それも流行の大きな要因になったのだと思います。でも、一番人気があるのはやっぱり媽祖なんです。福建の人々にとっては、時に媽祖の権威は裁判官よりも大きいこともあります。「裁判官ならだませるかもしれないけれど、媽祖に嘘はつけない」——そう考える人が多いのです。そのため福建のある地域では、「媽祖評理室」というものまで設けられています。もし誰かと争いごとが起きたら、両者がそこに行き、媽祖の前で腹を割って話し合うのです。このように、福建は伝統を重んじ、家族の絆を大切にし、信仰心も深い地域です。とても開放的でありながら、同時に保守的な一面も持っています。その代表例が港町の泉州です。泉州は私が大好きな街で、歴史と文化がとても豊かです。道教や仏教の寺院だけでなく、イスラム教やキリスト教の教会もあり、さまざまな宗教が調和して共存しています。街は小さいけれど、とても趣があって魅力的です。泉州をご紹介しましたが、やはり私の出身地・福州についても触れたいと思います。福州といえばやはり「三坊七巷(さんぼうしちこう)」です。三坊七巷はとても広い歴史的な建築群で、先ほどの泉州と同じように、遠くには高層ビルが並びつつも、この古い街並みがしっかり残されていて、歴史を物語っています。

福建のお茶文化についてご紹介します。ご存じのとおり、福建は中国でも有名なお茶の産地です。古くから海上貿易を通じて、福建のお茶は世界へ広がっていきました。実は福建は烏龍茶だけでなく、さまざまな高級茶の産地でもあります。福建の人々は商談のときによくお茶を飲みますし、家にお客さんが来たときも、必ずまずお茶をお出しします。

福建のもう一つの文化財は「脱胎漆器」です。以前の卓話で日本の漆器を見たことがありますが、実は福建の漆器もとても有名です。福建は漆そのものを生産しているわけではありませんが、気候や環境が漆器作りに適しているのです。「脱胎漆器」という名前の由来は、その独特な製法にあります。福建と日本は古くから交流が盛んでしたので、漆器についても何かしらの交流があったのではないかと思います。

最後に、福建の美食を簡単に紹介します。一番有名なのはやはり「佛跳牆(ぶつちょうしょう)」という料理でしょう。あまりに香りがよいので、修行中の仏様でさえも塀を飛び越えて食べに来る、と言い伝えられています。また、福州の魚丸や廈門の姜母鴨もとてもおいしいですが、味は言葉で説明するより、実際に食べてみたいと伝わりません。ぜひ一度味わっていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました！

クラブだより No.13

『多数ご参加下さい』

クリスマス親睦会は 12 月 15 日

18:00～、H・ニューオータニ

「翠鳳の間」

素敵な歌声をお届けいたします。
ご家族皆様でお越しください。



東京麹町ロータリークラブ

設立	1968 年 6 月 17 日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町 1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ 204 号
		TEL:03-3263-9220
会長	細谷 彬	FAX:03-3263-9122
幹事	木寅 雅之	e-mail office@koujimachi-rc.jp
公共イメージ 向上委員長	保科 充弘	URL: www.koujimachi-rc.jp